

喜怒哀楽

8-9
Vol.111

「喜怒哀楽」は、文芸を楽しむ方々の活力の源を目指し(株)ミュージック・コーポレーション喜怒哀楽書房が隔月発行している情報誌です。

CONTENTS

茂籠市男 (京都府・京都市) 2

村田三枝子 (山梨県・甲府市) 3

写真自分史づくり③ 4

「俳句と身体」④ 俳人 黒岩徳将 16

にいがた 食の歳時記 ～ぽっぽ焼き～



そろそろお祭りの時期。新潟県民のお祭りの味と言えば「ぽっぽ焼き」ではないだろうか。発祥は新発田市とも言われている。その新発田市近辺では「蒸気パン」という名でも有名だ。小麦粉に黒糖、炭酸などを加え、焼き上げる。味は黒糖味の蒸しパンといった感じ。「焼き器の蒸気口に笛をつけポーポーと鳴る音で客寄せをしたことから」「蒸気が上がる様子が蒸気機関車(ポッポ)に似ていることから」など名前の由来には諸説ある。現在ではお店でも売っていることがあるが、やっぱりお祭りの屋台であつあつを買って食べるのが一番かなあ。新潟の祭りと言えはの味。今年はお祭りもなさそうだし、家で作るのも一興かも!?

古今新 ⑬

「菜根譚」35

なんだかもやもやとした気分が続いておりませんが。そんな気分を晴らすべく、今回も「菜根譚」をお届けいたします。何かの参考になれば幸い。

横逆(おうぎやく)困窮(こんきゆう)は、是れ豪傑(たうれん)を鍛煉(たいれん)するの一副(いっぶく)の鑪錘(ろさい)なり。能く其の鍛煉(たいれん)を受ければ、即ち身心(しんしん)交(か)も益(えき)す。其の鍛煉(たいれん)を受けざれば、即ち、身心(しんしん)交(か)も損(そん)ず。

(逆境(ぎゃくけい)や困窮(こんきゆう)は、才知(さいち)・武勇(ぶゆう)に並み外れてすぐれていて、度胸(どくちゆう)のある人物(じんぶつ)を鍛え上げる錬金術(れんきんじゆつ)の設備(そくび)のようなものである。その試練(しれん)を受けることができれば、心身(しんしん)共に利益(りやく)になる。その試練(しれん)を受けることができなければ、心身(しんしん)共に損失(そんしん)を被(か)るようになる。) 困難(くわんなん)や逆境(ぎゃくけい)に耐えられる人が、真(ま)に優れた人物(じんぶつ)となるのですね。

吾(わ)が身(み)は一(いっ)の小(せう)天地(てんち)なり。喜怒(きど)をして怒(お)らざ、好悪(こうあく)をして則(すなわ)有(あ)らしめば、便(べん)ち是(こゝろ)れ變理(へんり)の功夫(こうふ)なり。天地(てんち)は一(いっ)の大(だい)父母(ふぼ)なり。民(たみ)をして怨(うら)み無(な)く、物(もの)をして氣疹(きしん)無(な)からしめば、亦(また)是(こゝろ)れ敦睦(とんぼく)の氣象(きさう)なり。

(自分の体(てい)は一(いっ)つの小(せう)宇宙(うちゅう)である。喜(き)びや怒(お)りも誤(あや)りなく、好(この)き嫌(きら)いも天地(てんち)の法則(はふそく)に則(すなわ)れば、調和(てうわ)の取(と)れた人生(じんせい)を送(おく)れる。天地(てんち)は、一(いっ)つの大(だい)きな父(ちち)母(はは)のよう(よう)なものである。全(ぜん)ての人(ひと)々に不(ふ)満(まん)心(しん)を持(も)たすこと(こと)なく、万(ま)ん

物(もの)に支障(しじやう)が無(な)くなれば、それ(それ)が理想(りゆうきやう)の世界(せかい)となる。)

大きな世界(せかい)も小(こ)さな自分(じぶん)も、同(どう)じ法則(はふそく)でできてい(い)る。理想(りゆうきやう)の世界(せかい)と理想(りゆうきやう)の生き方(いきかた)。考(かん)えさせ(させ)られます(たす)ね。

人(ひと)を害(がい)するの心(こゝろ)は有(あ)るべからず、人(ひと)を防(ぼう)ぐの心(こゝろ)は無(な)なるべからずとは、此(こゝろ)れ慮(りよ)るに疎(そ)きを戒(かえ)しむ(む)なり。寧(な)ろ人(ひと)の欺(あや)を受(う)くるも、人(ひと)の詐(いつはり)を逆(さか)ること母(はは)れとは、此(こゝろ)れ察(さつ)に傷(やぶ)るを警(いさ)むるなり。一(いっ)語(ご)並(なら)びに在(あ)らずれば、精(せい)明(めい)にして渾(こん)厚(こう)たり。

(他人(たにん)に危(あや)害(がい)を与(よ)るよう(よう)な心(こゝろ)を持(も)つてはいけ(い)ないが、他人(たにん)から(か)らの危(あや)害(がい)を防(ぼう)ぐ気持(きもち)ちは無(な)くては(は)いけ(い)ない)とは、思(し)慮(りよ)が浅(あ)い人(ひと)に向(む)けられた戒(かえ)めである。一(いっ)むしろ、人(ひと)から騙(だま)されても、人(ひと)の嘘(うそ)に逆(さか)らわ(わ)ない)とい(い)うのは、思(し)慮(りよ)が深(ふか)すぎる人(ひと)に向(む)けられた戒(かえ)めである。この二(ふた)つの言(ことば)葉(は)を理(り)解(かい)し実(じつ)践(けん)でき(き)れば、思(し)慮(りよ)深(ふか)くど(ど)っしり(しり)とした人(ひと)物(もの)でい(い)られる。)

思(し)慮(りよ)が浅(あ)すぎ(すぎ)ても、疑(あや)み深(ふか)くて(て)もうま(ま)く(ま)い(い)か(か)ない。しつかり(かり)とした判(はん)断(だん)力(りき)を養(やしな)わな(な)ければ(ば)な(な)りませ(ませ)んね。

なん(なん)だ(だ)か今(いま)回(かい)も身(み)につま(つま)され(され)る(る)こと(こと)が多(おほ)い(い)回(かい)で(で)した。素(もと)敵(てき)な世(よ)の中(なか)に(に)なり(なり)ます(ます)よ(よ)う!

(古川(ふるがわ)久(ひさ)美(み)子(こ))

もろいちお 茂籠市男様 『句集初蛩』

(京都府・京都市)

本年四月、八十歳を迎えられることを機に、十九年間通われたカルチャー教室の俳句三百句を「句集初蛩」として上梓された茂籠市男さまにお話を聞きしました。

Q 句集上梓のきっかけから教えてくださいませんか

今回の出版に至った経緯は、いくつかの条件が満たされたからと言えます。一つは、朝日カルチャーセンターの田島和生先生の俳句教室に通っていた時、教室の諸先輩方が、見事な句集を出版されたこと。それに大いに刺激を受け、啓発されました。

二つ目は、令和二年に丁度傘寿を迎える節目の年となること。

三つ目は、令和元年三月、急遽マンションへ転居することとなり、雑然としていた教室の資料を整理することを余儀なくされ、自分の句だけを一冊の



▲京都丹後生まれで「植物学者」のニックネームもある茂籠さん

ノートにまとめることが出来たこと。これで目鼻がついたと言いますか、できるような気になりました。何よりも、出版にかかる費用の捻出にも目途がたちましたしね(笑)。

Q 先立つものがないと、ですわね

それ以上に、転居と同じ時期に田島先生がカルチャーの講師を退かれることとなり、この機会を逃したら、まず句集は日の目を見ることはないだろうと思つたことも要因でした。先生には自選三百句に目を通し、心温まる「序」をしたためていただき、この上なく有難いことでした。

ただ、句集を上梓する決心はつき、以前、御社で出版をされた四宮様から喜怒哀楽書房の木戸様をご紹介いただいたものの、初めてのことであり、恐らく最後の句集となるでしょうから、恐れなりの本にしたいと期待半分、不安半分の日々を過ごすことになりました。

Q そうですか、不安だったとは…

私はパソコンも使えないアナログ人間、今回したことと言えば、十九年間の千五百句から三百句を選んだだけ。編集、装丁、印刷、製本、発送まで全て喜怒哀楽書房さんにおまかせしましたから、完成を待つのみでした。「どうなるんだらう？」という不安な気持ちには完全には拭えませんでした。技術的な苦労は皆無だったといつていいと思います。完成間近の、本の形になつた校正(装丁校正)を見た時点で感激、ご覧いただいた田島先生にも合

点をもらい、それまでの不安は一掃されました。

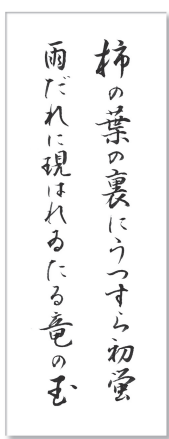


▲引越す前のご自宅周辺
絵は息子さんの手による

Q 反響はありましたか

令和二年四月に八十歳となり、これまでお世話になつた親戚縁者、俳句教室で句座を共にした方々、小中高時代の仲良き友人、勤務時代の先輩諸兄、習字教室の同窓の方々、居酒屋で酌み交わした仲間など、百六十五名の方へ発送いただきました。

その後、四月六日からおよそ二週間はお祝いの電話、メール、お便り等であつた。嬉しい悲鳴の日々となり、その反響の大きさに驚きました。やはり読んで好きな句を挙げていただいたお便りには感動するものですね。中には「装丁が素晴らしい」とだけ書かれた方もありました(笑)。表紙は長男の絵、中の扉の挿絵も長男や友達の手によるもの。息子との共作も思い出です。



▶この二句は直筆で収録。退職後に書道教室に通われ筆耕のお仕事も

「出版お祝いの会」といったお話もありましたが、このコロナ禍で中止・延期に。今は三カ月が経過し、もぬけの殻のような状態ですが、今後は麻雀や数独などを楽しみながら、老化防止・認知症予防に気をつけ、生きていきたいと思つています。

『句集初蛩』より

餡色の弁に盛りけり白子干
夏の雨ポニーテールの車屋さん
飲み会へ杖鳴らしゆく十三夜
差入れに小瓶の地酒初芝居

★お会いした際「下手な句ばかりやけど、孫に残したい」と、手書きのそれは見事な原稿を差し出された。大きな声で豪快に笑われるが、貴重面かつ繊細さが原稿から伝わってくる。二十六歳で重大事故、その後職場のマドンナと結婚するも四十一歳で急逝。周りの協力を得ながら二人の子どもを育て上げた。何度か連絡をした際には「今、麻雀中や」とか「もう飲んどった」と、京言葉でユーモアたっぷりに返される茂籠さま。孫四人に囲まれ、お仲間が多いこともうなずける。「完成したら、新潟に行くわ!」の約束が、早く実現することを一同楽しみにしています。

(木戸敦子)



▶扉の絵はご友人上野峯一さん画

村田三枝子様 『歌集 庭の菩提樹』

(山梨県・甲府市)

昨年十一月、歌誌「富士」に掲載された十三年間の作品から、三九七首を収録した歌集『庭の菩提樹』を上梓された村田三枝子さまにお話を聞きました。

Q 出版しようと思った経緯からお聞きします

数年前から、四人の子供達が歌集にすることを勧めてくれていました。ただ、私自身は自分の歌に自信がもてず、「歌集」をつくるなど無縁のことと思っていましたので、その勧めに応じないまま月日は経っていました。

しかし、いつの間にか子ども達の間では話が進んでおり、三人の兄達から下の妹に任せられ、結局娘は父親(夫)に相談したようです。夫は師である川崎勝信先生にお願いすることを提案し、私には伝えなのまま、娘と夫と二人で先生に相談に行きました。先生は快諾



▲たおやかな村田さんが、山梨のほとんどの山は制覇している

してくださり、その後先生と私と直接お話しし、出版する決心をいたしました。そして程なく、先生の一押しでの推薦で喜怒哀楽書房様にお願ひした次第です。

Q 本を出されるまではいかがでしたか

結社「富士」の歌誌に載せていただいた歌を、パソコンに打ち込む作業から入りました。主に娘と夫が行ってくれましたので、わずかな日数で終わりました。その歌稿を保存したメモリーを川崎先生にお渡しし、選歌、校正、編集と、すべて先生がご指導くださいました。私がしたことといえば、初校・再校を先生と一緒に確認し、少しだけ関わった程度でしたので、表紙絵と題字は自作でと思い、むしろ楽しみながら制作することができました。

Q 本を手にした時はいかがでしたか

想像していた以上の仕上がりに、思わず抱き締めてしまうほどの感動と感激でした。

近くの友人に直接届けたのですが「あのととき村田さんの嬉しそうな表情に、素晴らしい仕上がりで確信しましたよ」と、のちに話してくれました。

本当に作って良かったと実感するとともに、夫や子ども達とともに、私の一生の宝物となりました。何よりもうれしかったのは、初めてのことで何もかもわからないなか、喜怒哀楽書房様には私の希望等を察していただき、きめ細やかに然りげなくアドバイスをいただけたことでした。また、地元の新



▲表紙の絵は卵殻に彩色して作った自作のモザイク画であり、題字もご自身の筆

聞に掲載されたことで、中学時代の恩師をはじめ、長年お会いしていなかった友人や同級生からも連絡をいただき、交流が持てたことも喜びでした。

Q 今現在とこれからは?

野山の木々が芽吹き始める頃には、通年であれば仲間とまわりの山々に出掛けまわる季節。今年の春はコロナ禍で自粛せざるを得ず、必然と家に籠もる日々でした。まずは、孫の子守りが優先でしたが、その合間には以前から続けている卵殻モザイク画を楽しんでいました。

それと、五月の連休頃(この時は子守り無し)夢中になったことは、手作り本

では、手作り本でした。歌集『庭の菩提樹』に載せた以外の歌をまとめ、家のプリンターで印刷し、表紙には和紙を使い、和綴じにして自分用



と身内分の数冊を制作しました。やはり、本をつくることや、何かをまとめるといふことは本当に楽しいことと実感しました。これからも日々の暮らしのなかの小さな感動を見つめ、生きがいを求めて一日一日を大切に過ごしていきたいと思います。

『歌集 庭の菩提樹』より

かたくりの花咲く頃かその山に友と写しき笑顔とピース
わが脚に掴まり立てる黒き目をよいしよと初夏の空へ上げたり
風邪癒えて立てる厨辺手に載する豆腐冷たしふはりとやはし
娘と婿と選び選びし「瑞」の名の一字一世を清らかにあれ

★家族全員参加の「チーム村田」とでも言えるような本歌集『庭の菩提樹』。村田さんの成人式の日、口数の少ない父上が娘の成長を喜ぶ歌を詠んでくれたこと、その感動が歌への憧憬になったと聞く。父上にとってはささいなことだったかもしれないが、その時の三十一音字が以後の村田さんの人生を支え、形づくり、本歌集に結実しているように思える。お正月には子どもとその連れ合い、孫7人の計17名が集まるのが慣わしなのだとか。孫たちもいづれ本書を手に取り、三十一音字の慈しまれた記憶に背中を押される日がくるだろう。

(木戸敦子)



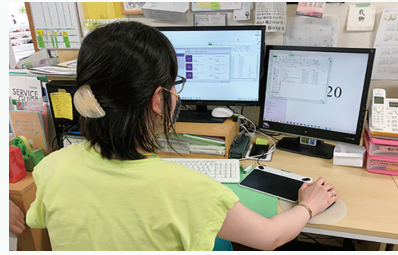
写真自分史づくり

～スタッフ松野が祖父の写真自分史の手伝いをします～

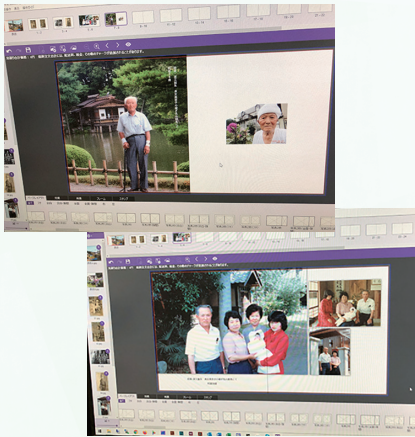
今回は、選んだ50枚の写真のキャプション(写真の説明)と、スキャンの様子をお伝えしました。今回は、制作のメインでもある、本の中身の写真のレイアウト(どの写真を、どのページに、どのように並べるか)の様子をご紹介します！



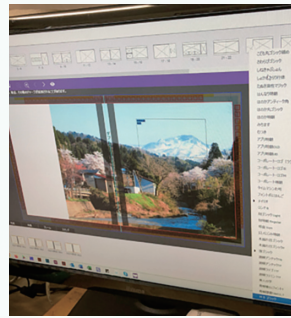
4. 写真の説明文を入れていきます。文字は見やすいようなるべく大きく、写真と文の間も全ページそろえるなど、目視しながら、細かく設定していきます。



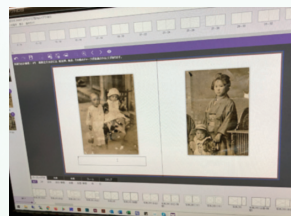
1. レイアウトは、2台のパソコンを駆使し、専用ソフトで制作をします！



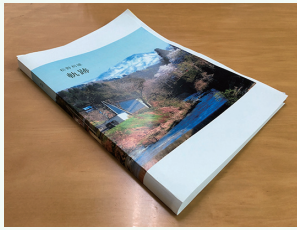
5. 通常では、写真や説明文は同じようなサイズで手堅くレイアウトしていきますが、「遊び心を加えて欲しい！」とオーダーいただければ、大胆で面白いレイアウトに。左例：写真をページいっぱい載せ、説明文を写真の中に埋め込む。わざと写真を小さくし、シユールなイメージに。



2. まずは、表紙デザイン制作。区切られている右側がオモテ表紙、真ん中が背表紙、左側がウラ表紙となります。デザイナーが表紙写真の雰囲気合った配置・色・フォント(書体)を選び、表紙を作ります！



3. 中身のレイアウトに入ります。基本的に余白の部分は、統一感を出すために全ページ上下左右同じ値に設定してあります。全て同じサイズの写真なら写真を埋め込むだけでいいのですが、縦長や横長、切り取り編集された写真もあるの



● 次回は、編集部とお客様による校正についてご紹介いたします！

6. レイアウトが完了したらプリントアウトし、まずは当社スタッフが校正を行います。修正したものを再度プリントし、お客様校正用としてお送りします。

当社で写真自分史を作る際のポイント

「シンプルで堅実な」作品を作りたいか、「ユニークで遊び心ある」作品を作りたいか、スタッフにお伝えください！



◆ 幻の開会式の日ついに点火!? コロナウイルスの影響で埋め草にでもなればと、気軽にわが句集を！などと大見得を切ったものの、前回の喜怒哀楽6月号からただ一日一句を詠むだけで、何もしておらず。「木戸さんの句集への道、期待しています」というアンケートの声を思い出し、どうしよう…と、7月のオリピックが始まるはずだった休日に、やおら自宅の机にしがみつく。

◆ ライトで気軽な句集を
今まで記した汚い手帳2冊と「銀化」誌に掲載された句を手書きしたノートとにらめっこ。比較的評価をいただいた句、そうでもないけれど自分の好きな句をパソコンに入力し始める。気が付けば夕方、

句集への道 (第三回)

一木戸敦子が自分の句集づくりにチャレンジ!

3回目の今回は、俳句の整理・編集についてのレポートです。

数えると168句に。世に問う、というか、もちろん世に問えるような句があるはずもなく、自身の5年間の俳句の記録、ただそれだけのことだ。駄句もあるがそれでもいい。句集然としたものではなく、「残す」という意味において、肩ひじ張らずにライトで気軽な冊子を作りたいのだ、と思いつく。

◆ 粗が見えないように…
春夏秋冬新年、1ページ2句として考えて168÷2=84ページ。それに言い訳がましいあとがきの駄文を加えても百ページ弱。あの方、この方、句集を作られたお客様の顔が思い出され、そのお顔に後光が射してくる。皆さんすごい！無理やり入れた句もあるから、もっと厳選した方が粗も見えないかも…などという身勝手な思いが頭をもたげる。それにライトな句集なのだ。もつと絞った方がいいな、どうしよう…悩ましい。そこで、銀化の同人の方に相談すること。結果120句に絞ろうと決意。午年ながら牛歩の歩み。でも後退も停滞もしていない！と自分を鼓舞しつつ、今回はここで力尽きました…(笑)。

さて、次回4回目は本のサイズやレイアウトについてレポートできればと思います。どうぞお楽しみに。

※誌面の都合上、掲載は原則お一人さま1作品とさせていただきます。

今回の投稿作品数は、246でした。

※しめきり 2020年9月15日(火)まで



投稿作品

俳句

- 1 黄昏れの春の雨音聴きゐたり
青木ケン子(埼玉県)
- 2 花筏よコロナ黄泉人乗せてよ
大野寿子(大阪府)
- 3 手にうつる草の匂ひや七月尽
松嶋光秋(東京都)
- 4 花曇り芭蕉一門大句会
鶴房 章(兵庫県)
- 5 健やかに米寿楽しむ百日紅
内河邦久(東京都)
- 6 憂ひたる少女の瞳アマリリス
環 順子(東京都)
- 7 白紙には白紙の主張梅雨の雲
望月哲土(東京都)
- 8 風薫る竿竹売の声遠く
齋藤光雄(新潟県)
- 9 蛇が出て槌の子見たと云ふ話
吉里ひとみ(東京都)
- 10 晩年の流るる月日青嵐
井原穂子(東京都)
- 11 草引けば小さき命の逃げ惑ふ
大阿久雅子(埼玉県)
- 12 サーフアーの曲芸に湧く九十九里
古谷 力(東京都)
- 13 黄砂降る大地に父のチャイナ服
三津木俊幸(千葉県)
- 14 万緑へ八十路の一步踏み出さむ
橋本 絢(東京都)
- 15 君までも逝くやもみじの青き蔭
古閑智子(神奈川県)
- 16 鯉のぼり幸せ願う父と母
原田治男(東京都)
- 17 青空を重く張り出す梅雨の雲
天野輝子(東京都)
- 18 桑の実や孫へ昔を語りたる
関 誠(新潟県)
- 19 ひたすらに干支を七たび風薫る
有坂馨園(福島県)
- 20 原爆の日ぞ人としてあらがへよ
福岡 悟(東京都)
- 21 まだ切らないでねと名残のサツキ
白松いちろう(千葉県)
- 22 枇杷ひとつ残して鳥のおやつかな
小田ゆかり(新潟県)
- 23 代掻いて大地震はす大合唱
富高くにひろ(埼玉県)
- 24 民宿の女王や若楓
二瓶邦枝(埼玉県)
- 25 あぢさゝるやお伊勢参りはお預けに
小島岳青(新潟県)
- 26 四阿をゆく風清か白あぢさゝる
九法活恵(埼玉県)
- 27 辣韭を漬けてボトルの大五郎
井上静夫(栃木県)
- 28 しやぼん玉いもつとに吹く兄に吹く
高松玲子(埼玉県)
- 29 篋の竹の子を掘る真顔かな
溝畑万年青(埼玉県)
- 30 源泉は湖底の村よ山法師
津布久信雄(東京都)
- 31 昔日のことなつかしむ夾竹桃
竹本美美子(新潟県)
- 32 風薫る純白という和紙になる
早乙女文子(埼玉県)
- 33 夏帽子十分間の日光浴
檜山柚子香(東京都)
- 34 一輪車あやつる父子風光る
堅田秀子(東京都)
- 35 七夕の短冊にみる子の本音
長峰正晴(千葉県)
- 36 テレワークと凡そ縁なき田植かな
岩村 昇(神奈川県)
- 37 ペリカン像のやや羽広げ秋暑し
すずき笑子(東京都)
- 38 南風やつと登校笑み戻る
居原田暹(大阪府)
- 39 遠足のおやつにバナナ昭和哉
若月理依子(新潟県)
- 40 雨を得て紫陽花いとど艶やかに
大谷 茂(埼玉県)
- 41 青春の詩集手にする曝書かな
堀木和子(大阪府)
- 42 睡蓮や白き雨降る法の池
平林温州(兵庫県)
- 43 何もかもコロナのせいに梅雨に入る
井田由利子(宮城県)
- 44 紫陽花や私はこう言う色である
湯浅芳郎(岡山県)
- 45 秩父から吠える狼消えたまま
山崎吉晴(群馬県)
- 46 滴りや恙の妻と峽に生き
佐野和彦(静岡県)
- 47 廃屋の収穫人もなく梅熟れる
井上氣海(広島県)
- 48 胸を張り息吐ききさるや雲の峰
小澤円梨(静岡県)
- 49 緑陰に素顔さらして深呼吸
川嶋法子(東京都)
- 50 落日の風纏ひをり竹落葉
杉原明子(静岡県)
- 51 静けさや古き沼池の蕁舟
島村幸重(兵庫県)
- 52 産土の深き懐夜の秋
高野ほづ子(千葉県)
- 53 紫蘭咲き鉄線の塀賑やかに
磯部 力(新潟県)
- 54 足もとの闇に真白き十字草
大塚徳子(埼玉県)
- 55 少年のまだ見ぬ敵に草矢打つ
寺内 信(埼玉県)
- 56 さつき晴人形抱いて夢うつつ
湯浅暉子(石川県)
- 57 愛憎の引いては満つる春の海
鈴木米征(茨城県)
- 58 梅雨湿り身の置き処なきひと日
中田文子(大阪府)
- 59 青梅やいつもの猫のゐるところ
小島澄子(神奈川県)
- 60 身は奏えて木々は色増す夏の室
杉村美保子(岩手県)
- 61 実梅落つ時がゆたかに流れけり
今井勝子(新潟県)
- 62 心太するりと話題かはしけり
関山恵一(神奈川県)
- 63 絵手紙は心通わす四葩かな
塩崎須美子(神奈川県)
- 64 桜桃の粒そろひをり寡嫁の文
貝瀬光洋(神奈川県)
- 65 一浪に爺の励まし梅雨晴間
坪田勝秀(鹿児島県)
- 66 和傘にはバンクシーの梅雨の月
浦橋渴雪(兵庫県)

- 67 魚沼の米に添えたりし初鱈
置鮎勝美(千葉県)
- 68 傘を手に逃げ廻る女児や水鉄砲
吉村充治(埼玉県)
- 69 この夏はだれも乗らない縄電車
若林卓宣(三重県)
- 70 モカ飲んで古書店のぞく梅雨時間
鈴木清子(埼玉県)
- 71 翻の子はまだまだこのこの沼に
白戸麻奈(東京都)
- 72 置き忘れ仕舞ひ忘れし去年の雪
阿部澄江(宮城県)
- 73 旅に会う優しき淡きシャガの花
杉本敬治(愛知県)
- 74 蛍袋が落石避けの網目より
松尾憲勝(神奈川県)
- 75 なにゆえにかくも旨きか冷奴
渥美 保(滋賀県)
- 76 忌の十年支えられてた気づく夏
金子範子(高知県)
- 77 変則の入学式や緑さす
中島光江(埼玉県)
- 78 つぎの世は沙羅散る園に眠りたし
日名子春実(群馬県)
- 79 茶どころの今は昔や茶摘み唄
片山茂子(埼玉県)
- 80 もちぶたにおにぎり揃へ水見舞
津田卿雲(岡山県)
- 81 吾が猫背ほこり払いて四月尽
重原爽美(新潟県)
- 82 溶岩に摘む虎杖の芽の奏でけり
中野勝子(鹿児島県)
- 83 いま銭湯アートのめく富士麓にて
上村元義(神奈川県)
- 84 下校児ら密接密集梅雨晴間
松岡水学(埼玉県)
- 85 山風の強さに梅の落下せり
清まさじ(静岡県)
- 86 母の日やモナリザのごと妻の笑み
仁藤ひろじ(埼玉県)
- 87 万緑にとけゆく女のざわめきを
北野耕兵(千葉県)
- 88 出港を見送る丘や虹立てり
本庄準也(埼玉県)
- 89 夏来るペンキの匂ふ艇庫かな
田中 昶(鳥取県)
- 90 手を開き囹の鮎を流しけり
間森 坦(兵庫県)
- 91 蜘蛛の囿の破れてゐたるひとところ
伊藤 修(埼玉県)
- 92 蜘蛛の糸共になぐさむ蟄居かな
多田文代(東京都)
- 93 なき父母の声聞こえたり麦の秋
中嶋清子(佐賀県)
- 94 菖蒲吹く湯煙あびし兄妹
倉沢ひとみ(静岡県)
- 95 剪定に脚立みまもる妻といて
堀田寿美子(北海道)
- 96 列なしてパンの匂いや町薄暑
鈴木公子(千葉県)
- 97 あじさいは雨降る庭で主の顔
松島章子(兵庫県)
- 98 種砕く親より学ぶ巣立鳥
佐山 勲(新潟県)
- 99 十葉の残り香消えぬ指の先
若井令子(兵庫県)
- 100 素跣なら床拭きもする良妻に
矢野紀子(兵庫県)
- 101 芍薬の花心に深く紛れ込む
梶 鴻風(北海道)
- 102 五月雨や母宿題に肩入れす
神 一男(静岡県)
- 103 十姉妹うちに預る夏休み
山里倫子(静岡県)
- 104 早苗饗や爺が奉行の焼豆腐
中岡宗治(三重県)
- 105 登校の足並そろう梅雨晴間
岩田 信(神奈川県)
- 106 枇杷熟るるいま残照の千住宿
木村徳夫(東京都)
- 107 正直に話してみやうところ天
桜井葉子(千葉県)
- 108 海向かひヒマワリ凜と風に立つ
中川義彦(新潟県)
- 109 葉桜の影の揺れ斑に身を宿す
坪井研治(東京都)
- 110 緑蔭の夢は意図せぬ夢ばかり
羽深そら(埼玉県)
- 111 百才体操あじさいに囲まれて
大窪美代子(大阪府)
- 112 夏空の上毛三山泰然たり
山田富朗(埼玉県)
- 113 筑波見て青田の風に汗ぬぐふ
田村よし(茨城県)
- 114 蒼き森撫の木植えし悠翔かな
齋藤博洋(秋田県)
- 115 ひまはりやカーヴミラーの多き村
一瀬正子(埼玉県)
- 116 生業の歴史揺るがす新コロナ
門田善二(兵庫県)
- 117 家事好きなき己に気付く豆の飯
永田歌子(埼玉県)
- 118 紫陽花の彩うつしおり玉霽
長谷部喜代子(大阪府)
- 119 嗚れ声屋台の並ぶ浜の夏
齊藤安弘(神奈川県)
- 120 自肅駅つばめ横切るコンコース
中山日出子(大阪府)
- 121 七夕に幼等の夢明日の国
木村 舂(山形県)
- 122 湯の宿や並ぶ寝床に籠枕
佐藤 信(神奈川県)
- 123 草を引く五臓六腑に朝の風
清水君江(埼玉県)
- 124 山帽子真白き花の夕間暮れ
道給一恵(埼玉県)
- 125 手花火の仕舞ひの火玉固唾呑む
渡辺邦彦(新潟県)
- 126 ももいろの蓮のつぼみは夢つつむ
中澤寿美(神奈川県)
- 127 じゃんけんのつよき妹さくらんぼ
内藤紀子(埼玉県)
- 128 万緑の中や木椅子に深呼吸
増田公代(東京都)
- 129 義母の味まねて辣菰浸けており
沖 惇子(大阪府)
- 130 飛び去りし龍の後追ふ青田風
安田芳江(茨城県)
- 131 新コロナ負けず元気な蟻の列
松前邦広(千葉県)
- 132 距離をとることに馴れて夏帽子
椋本望生(大阪府)
- 133 屋根越しに月光かへす柿若葉
柴田恵美子(北海道)
- 134 血の川となりし事実よ原爆忌
高井瑞江(広島県)
- 135 ひまはりの一花に力貰ひけり
阿部昭子(埼玉県)
- 136 初蝉やこちら六号公園よ
高垣勝代(大阪府)

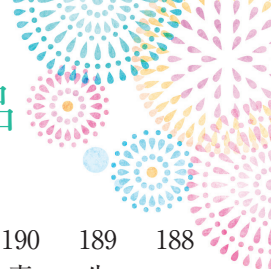


短歌

- 137 恐ろしき小松左京の「復活の日」ア
フターコロナを案じて読みぬ
関原幸子(東京都)
- 138 届きたるマスクを額に飾ろうかこん
な時代があった証に
桑原謙一(群馬県)
- 139 花いっぱい窓からながむわが庭の空
清くサルビアの紅
大鳥居牧子(東京都)
- 140 日本の五輪の春であったはずコロナ
コロナで「禁欲の春」
黒澤正行(福島県)
- 141 おれがみねばとおもう傲りもやめて
過ぐ新潟三越ラストデイうつくし
安部 哲(新潟県)
- 142 朔太郎の育ちし町の広瀬川ゆつたり
流るる水面光りて
中沢敬子(千葉県)
- 143 散りしきし色とりどりの桜葉にしは
し見とれて心なごみぬ
本田智恵子(東京都)
- 144 まだコロナ流行りしおそれありし現
在外出して気がゆるむ日々
大橋絵代(千葉県)
- 145 ナガイモの蔓の間を駆け抜けてクモ
の巣まみれの昭和は遠くに
早坂紘司(北海道)
- 146 子を思う父の涙ひとしづくかよわぬ
心近国なれど
佐伯セツ子(香川県)
- 147 黒き羽根一枚落してカラスとぶ死者
の使いをふと信じたり
寒川靖子(香川県)
- 148 身を賭してこそ為政者の本望と知れ
国難の今 石尾曠師朗(東京都)
- 149 翳やかな優雅美人を思はせる芭蕉も
詠みし合歓の花咲く
久本にい地(岡山県)
- 150 朝夕に換気するひと一列に親子連れ
いてもろこし畑
土屋喜雄(山梨県)
- 151 盗つとなの中井貫一の雲霧仁左衛門
白髪の婆は惚れたのよ
濱崎祥子(鹿児島県)
- 152 人集う話の中に活々と生きる姿をお
しえられ 高橋登志子(新潟県)
- 153 仏壇に明り灯しつづつ嫁が言う平成最
後のお彼岸ですなと
富樫佐與子(新潟県)
- 154 雨戸引きそつと見やればつくばいに
水浴びをする雀かわゆし
森 由恵(奈良県)
- 155 手を振ってDに出かける夫の顔笑顔
と見れば、ホッとするとき
田中豊恵(新潟県)
- 156 水無月の朝の参拝ご貫主の紫衣透け
てさわやか 峯岸信子(東京都)
- 157 恙がなく動ける余生に不足なしト
マトは熟れて西瓜蔓伸ぶ
夏井寛治(新潟県)
- 158 プロ野球無観客でもベンチではマス
クいっぱい笑顔いっぱい
坂元正憲(東京都)
- 159 彼の浜辺はまゆう咲くか遠き日の真
白き花の恋ひし夕べよ
内藤明子(東京都)
- 160 引き揚げの辛酸なめた親友は認知の
世界笑顔振りまく
守安幹男(岡山県)
- 161 がんこにもおのれを変えず逝く人の
火葬の骨のサラサラと落つ
合田浩子(茨城県)
- 162 青田ゆく機上の夫は生き生きと八十
路の米を植えつけて行く
相馬 純(新潟県)
- 163 耳遠くなりゆく吾を呼んでいる夕べ
厨の笛吹きケトル
野木宗信(奈良県)
- 164 濁流が轟音立てて流れ込み町の景観
見る影もなし 早坂保文(宮城県)
- 165 コロナにて経済路酸血症倒産縮少
解決重し 宇都木安子(東京都)
- 166 天災とあきらめきれぬ災害にリアル
タイムの映像むなし
岩崎令子(大阪府)
- 167 トランプを選んだ米国の現実は蟻に
倒さる巨象の如し
中村万年青(京都府)
- 168 コロナ禍に人通りなき佐潟湖畔心ゆ
くまで谷わたり聴く
豊田智恵子(新潟県)
- 169 君六十われ五十四の別れなりきセン
マイ巻けば時計コチコチ
糸賀緋紹子(茨城県)
- 170 古びればピンクのあじさいかわり果
て坪庭にありわが身のごとし
高須 孝(愛知県)
- 171 一日の幸せを祈る五本指
木村洋一(新潟県)
- 172 亡き友が笑顔で我に話しかけ
守屋高雄(岩手県)
- 173 検針はガスが電気か簾越し
丸山芳夫(東京都)
- 174 逝く人や戻る人無しいところ
西條公雄(埼玉県)
- 175 真夏日や目鼻口病包みけり
大場岬庵(長野県)
- 176 委託かい悪代官と同じだな
原 崇雄(埼玉県)
- 177 戦後派にとつて靖国花見場所
細川光子(栃木県)
- 178 枯れた心へ愛の差し水待っている
小山恵美子(大阪府)
- 179 ぬる酒父なつかしむ秋の夜
鈴木義雄(福島県)
- 180 あれもこれも令和に盛ったはずの夢
目黒豊光(福島県)
- 181 マスクして目元涼しき美人かな
橋本世紀男(東京都)
- 182 給付金元を正せば我れの金
小林七重(新潟県)
- 183 おおよその苦勞が解る顔のシワ
長谷川庄二郎(千葉県)
- 184 自粛した家賃はらえぬ天秤棒
奥那於子(大阪府)
- 185 柳壇の心も深し医の小徑
五十嵐陸博(新潟県)
- 186 生命線かき足している4月1日
阿部徳夫(宮城県)
- 187 コスモスはお化粧嫌う妻のよう
岩崎弘舟(岡山県)



川柳



- 188 コロナ禍腹をくくって耐え忍ぶ
久保壽雄(北海道)
- 189 生きてこそ不満も云えるこの世かな
大木和男(埼玉県)
- 190 妻は留守ブラックボックス台所
中村康浩(福岡県)
- 191 吹きよせる路地の奥にも詩がある
渡部美代子(山形県)
- 192 真夏日や白加賀梅酒琥珀色
青木日出男(群馬県)

フォトイック

こちらの写真を見て詠んでいた
だきました。



(写真提供：浅田季祐さん)

- 193 夏祭金魚掬いの懐かしき
関原幸子(東京都)
- 194 夏祭り等の待ちたる露店かな
齋藤光雄(新潟県)
- 195 子供等の夢いっぱい夜の店かな
井原稔子(東京都)
- 196 お面より子の関心は浮いてこい
大阿久雅子(埼玉県)
- 197 夏祭り出店に遊ぶ元気な子
天野輝子(東京都)
- 198 手元みる真剣すぎる子供の目
小山恵美子(大阪府)
- 199 すくえたか足もしびれる左き、
大鳥居牧子(東京都)

- 200 限りなく私を生きる青蛙
福岡 悟(東京都)
- 201 無我夢中必死ですくう欲しいもの
橋本世紀男(東京都)
- 202 母の手を放しかけ寄る浮いて来い
九法活恵(埼玉県)
- 203 ドネルなんとかの屋台のトルコ人
と子ら
安部 哲(新潟県)
- 204 金魚掬う夭逝の子の影うつる
早乙女文子(埼玉県)
- 205 夏祭り水中玩具とあそぶ孫
檜山柚子香(東京都)
- 206 早くして後ろに言われ固くなり
長谷川庄二郎(千葉県)
- 207 男の子だものポイに託して大玉を
長峰正晴(千葉県)
- 208 何事も夢中がたのし走り梅雨
岩村 昇(神奈川県)
- 209 ヨーヨーや月光仮面夜涼の灯
居原田暹(大阪府)
- 210 平穏な日々がいちばん遠かつこう
井田由利子(宮城県)
- 211 ボク五歳祭で掬うスパーボール
山崎吉晴(群馬県)
- 212 あれこれと玩具選ぶや夏祭
佐野和彦(静岡県)
- 213 品定め祭のみやげ宝物
小澤円梨(静岡県)
- 214 何すくう雑踏の中の夢中の子
奥那於子(大阪府)
- 215 童心に返る夜店の熱気かな
川嶋法子(東京都)
- 216 下町の町内祭り子らの夢
寺内 侘(埼玉県)
- 217 迷いつつやと見つけた男の子の手
佐伯セツ子(香川県)

- 218 無限なる時間遊びに深さかな
五十嵐睦博(新潟県)
- 219 をさな児の夢を育む玩具かな
久本にい地(岡山県)
- 220 臍出しの屋台を巡る祭かな
今井勝子(新潟県)
- 221 コロナ禍や祭りくる事願いおる
星 一子(神奈川県)
- 222 いとし子よやがて反抗期の夏へ
鈴木清子(埼玉県)
- 223 ばく欲しい七色の幸せつかみたい
阿部徳夫(宮城県)
- 224 美味しそうドロップだったら食べた
いな
阿部澄江(宮城県)
- 225 夏盛ん少年の夢きりもなき
日名子春実(群馬県)
- 226 夏祭吸ひ寄せらるる露天商
片山茂子(埼玉県)
- 227 早くコロナ終息すれば良いのにと
岩崎弘舟(岡山県)
- 228 ノスタルジー金魚すくいと綿アメと
濱崎祥子(鹿児島県)
- 229 夏祭りおもちゃいろいろ子は夢中
高橋登志子(新潟県)
- 230 何ほしい私ばば様見てるだけ
田中豊恵(新潟県)
- 231 三才の興味煌めく夏祭
有田裕子(北海道)
- 232 夏まつり仮面ライダーに見守られ
梶 鴻風(北海道)
- 233 流行のおもちやに魅力五月雨
神 一男(静岡県)
- 234 コロナで一人ぼっちでおみせ屋
さん
渡部美代子(山形県)
- 235 少年よ大志で選べゴム風船
青木日出男(群馬県)

- 236 遠き日や夜店さかな町にゐて
大窪美代子(大阪府)
- 237 失敗の子にも2つの思いやり
守安幹男(岡山県)
- 238 元気である無心の幼児我を励ます
合田浩子(茨城県)
- 239 夏まつり無心に選ぶ男の子
田村よし(茨城県)
- 240 真剣に取り組む姿微笑まし
宇都木安子(東京都)
- 241 腕白坊主お宝を探しけり
齊藤安弘(神奈川県)
- 242 コロナ禍にせめて子らには思い出を
岩崎令子(大阪府)
- 243 懸念に夢つかむ児や夏まつり
内藤紀子(埼玉県)
- 244 玉すくい勉強よりも難しい
松前邦広(千葉県)
- 245 小銭手に昭和の匂ふ夜店かな
椋本望生(大阪府)
- 246 掬へるかな親もどきどき祭の夜
阿部昭子(埼玉県)

俳句・川柳募集!!



(写真提供：浅田季祐さん)

上の写真から、自由にイメージし五七五(俳句か川柳)で表現してください。応募はアンケートハガキ投稿欄にて。お待ちしております!



「投稿作品で心に残ったものは？」の問いに、たくさんの回答をお寄せ頂きありがとうございました！その中で特に多くの評価を集めた作品と、それを選んだ理由の一部をご紹介します。
※大賞と自句自解コーナーは年1回です。

◎短歌部門

8 「旅立ちの日に」をビデオで歌う子
等卒業式の中止淋しき
関原幸子(東京都)

・コロナの影響で中止になってしまった卒業式、ビデオでお別れの歌をうたうことになったのだろう 桑原謙一(群馬県)・卒業式は人生の節目。コロナ禍で中止は気の毒ですが、やがて大人になって振り返ればこれも又懐かしい思い出に 橋本絢(東京都)・今春の風景をよく現わしている 合田浩子(茨城県)

13 一口を三口に分けて介護士の昼餉
世話する姿優しき
守安幹男(岡山県)

・介護士の苦勞とやさしさがよく表現されている 夏井寛治(新潟県)・一口を三口に分ける仕草に感心した 青木日出男(群馬県)・介護士の優しさがやさやかな行為を通して伝わってくる 早坂保文(宮城県)

21 老いた母淋しさよぎるいとおしい
何の術なくただ涙する
津山和照(広島県)

・認知になった母を介護、教員と坊守をしてた母に対しての思い 井上氣海(広島県)・病気で死を待つベッドでの看病を半年続けた母との思い出がよみがえってきました 阿部澄江(宮城県)

◎川柳部門

35 幸せの計り笑顔と少し金
木村洋一(新潟県)

・「少し金」がいかにも川柳的で共感してしまふ 目黒豊光(福島県)・国の内外で今は笑いが減り難しい顔になっ

ています。「幸せ計り」やはり笑顔が必要ですね 長谷川庄二郎(千葉県)・コロナ危機があったからこそ考えさせられる 久保壽雄(北海道)

中村康浩(福岡県)

38 答弁に目立つ黒子の手書きメモ
・国会中継やコロナの会見もガッテンがいきません 小山恵美子(大阪府)・今の社会を風刺している 大橋絵代(千葉県)

40 終活で過ぎし昔を掘りおこし
守屋高雄(岩手県)

・コロナ関係が殆んど中でホッとする 細川光子(栃木県)・コロナウイルスでなるべく外出できないので自分も終活で昔のことを思い出している 松尾正一(岩手県)



◎俳句部門

66 その内という日は来ずや鳥雲に
関山恵一(神奈川県)

・茫茫とした感がよかった 望月哲土(東京都)・94歳になった今もそのうちにとつい後回しにしようとする自分があり、考えさせられた 堀木和子(大阪府)・さらっと詠んだ句ですが心に残ります 季語の「鳥雲に」が効いています 今井勝子(新潟県)・「その内」という表現は、自分の願望にも他人への軽い断りにも使われる 季語「鳥雲に」との取り合わせが良い 伊藤修(埼玉県)・鳥雲に切なさがあり身につまされました 羽深そら(埼玉県)・あきらめているのにどこかで期待感をもっている ほんやりした「鳥雲」が合っている 内藤紀子(埼玉県)

74 国中から笑顔の消えたマスクかな
早乙女文子(埼玉県)

・見えない敵です。自衛する外に道はないのです 井上静夫(栃木県)・時間をとらえた秀句とみた 岩村昇(神奈川県)・コロナの脅威に日本中が怯えました 山崎吉晴(群馬県)・自粛の中で外出もままならず心配ばかりで笑顔など忘れる様なのをえている 堀田寿美子(北海道)・多くの人が気づいてるが、言い得ていない表現。目の大切さを際立たせる句 中村康浩(福岡県)

97 忙しさも程良き暮し豆御飯
小林七重(新潟県)

・忙しさも健康の元。美味しいお豆の香りがして来ます 堅田秀子(東京都)・ささやかな喜びですが忙しさも程良き日々を送りたいです 豆ご飯がいいですね 奥那於子(大阪府)・理想的な暮らしてですね 豆御飯は好きな人も多そう 小島澄子(神奈川県)・健康であればこそ毎日が楽しいですね 本庄準也(埼玉県)・休日に遊びに行つた時、食べた豆御飯 高橋登志子(新潟県)・季語の幹旋 坪井研治(東京都)

坪田勝秀(鹿児島県)

112 祝詞なき歌もなき日に卒業す
・人生で一番心に残る卒業式、コロナ自粛のせいでほろ苦い思い出になってしまった 大阿久雅子(埼玉県)・人生の節目にこんな体験するなんて：これから良い事がたくさんありますように 川嶋法子(東京都)・晴れの入学、卒業式がコロナのために：辛いです 関山恵一(神奈川県)・令和二年の卒業式、祝辞もなく別れの歌もなくこんな卒業があつていいのでしょうか 中野勝子(鹿児島県)・単純にして明快。そして湧く寂しさ 高橋卓二(新潟県)・入学も卒業も新様式でも心に残る筈。若者に幸あれ 守安幹男(岡山県)・新コロナ緊急事態宣言の春！ 門田善二(兵庫県)

◎フォトイック

今回大賞はありませんでした。

◎他にも

22 待ちていしひまごに会わせぬコロナの世桜も遂に葉桜になる
高須 孝(愛知県)

30 タンポポの綿毛の模様よく見れば
驚くほどの美の世界なり
早坂保文(宮城県)

53 十万円押したたくは血税ぞ
豊田智慧子(新潟県)

60 今日あることの幸せ飛ぶ虫
内河邦久(東京都)

63 ゆるやかに老いて生れの日更衣
堅田秀子(東京都)

68 天気雨葉桜の道走りぬけ
小林美智(新潟県)

93 花は葉に人にそれぞれ生きる道
吉村充治(埼玉県)

101 草とるもとらぬも勝手老いならば
長峰正晴(千葉県)

120 惜春や苦渋は口にせぬと決め
高崎登喜子(東京都)

156 終活や春の一日のシュレッター
日名子春実(群馬県)

180 紫陽花やもうひと変化喜寿の齡
小泉芝雲(千葉県)

※今後もふるってご投稿をお願いいたします！

Q

前回のアンケート
もらって嬉しかった、
贈って喜ばれた
プレゼントは何ですか？

●メッセージ

- 手紙 内河邦久(東京都)
- 言葉 島村幸重(兵庫県)
- 母の日のメール 白戸麻奈(東京都)
- 退職の日に送ったお手紙 大木和男(埼玉県)
- 子供、孫からのメール 門田善二(兵庫県)
- 「貴女とお逢い出来て良かった」の言葉 鈴木康世(神奈川県)
- 育休明け出勤前日に届いた電報 若月理依子(新潟県)
- 自作(句)へのご批評の手紙 松尾憲勝(神奈川県)
- 著作品に対する感想文 高橋卓二(新潟県)
- 友人知人の寄せ書きの色紙 大窪美代子(大阪府)
- お花
 - 花束 松嶋光秋(東京都)
 - 花の植木鉢 堅田秀子(東京都)
 - 「母の日」に豪華なカーネーションの花束 清水君江(埼玉県)
 - 挿し木育てた白い紫陽花 原田治男(東京都)
 - 引越し祝いの造花のカゴ盛り 小林七重(新潟県)
 - アレンジメントフラワー 早坂保文(宮城県)
 - 中山日出子(大阪府)

●孫からのプレゼント

- 孫の版画 渡辺邦彦(新潟県)
- 愛の言葉(孫からの便り、電話) 合田浩子(茨城県)
- 手紙と人物画 小澤円梨(静岡県)
- 似顔絵 森 由恵(奈良県)
- 修学旅行で買ってきた「健康御守」 今井勝子(新潟県)
- 手鏡 二瓶邦枝(埼玉県)
- 洗顔クリーム 田村よし(茨城県)
- ハンドマッサージャー 置鮎勝美(千葉県)
- 孫息子が一人で選んだというバッグ 相馬 純(新潟県)
- ルール美術館展のチケット 川嶋法子(東京都)

●本

- 私の句集 稲葉民雄(千葉県)
- ご縁ブック 橋本世紀男(東京都)
- 入院の友人へ「ターシャ写真集」 安部 哲(新潟県)
- 俳句の先輩が他界。彼の句を和紙とじの手作り句集に。泣いて喜ばれた 濱崎祥子(鹿児島県)
- 心の糧になる本 増田公代(東京都)
- 持病に関する本 木村 舂(山形県)
- お金 吉村充治(埼玉県)
- お年玉 坂元正憲(東京都)
- お金：(妻の声にトホホ) 目黒豊光(福島県)



- 誕生日、記念日、入学式には現金 小山恵美子(大阪府)
- 商品券 佐伯セツ子(香川県)
- 食べ物
 - 宮城県産のお米「ひとめぼれ」に「よこにしき」 阿部徳夫(宮城県)
 - 胡麻豆腐 天野輝子(東京都)
 - 江戸前の焼海苔 山田富朗(埼玉県)
 - ジャム 望月哲土(東京都)
 - 生そば 三津木俊幸(千葉県)
 - 乃がみのパン 重原爽美(新潟県)
 - 博多ラーメンセット 湯浅芳郎(岡山県)

●フルーツ

- 果実を友人に 土屋喜雄(山梨県)
- 千葉の「梨」を北海道の知人に 白松いちろう(千葉県)
- さくらんぼ、苺、メロン等 山里倫子(静岡県)
- 沖繩のマンゴー 久保壽雄(北海道)
- 故郷から果物 本庄準也(埼玉県)
- 高知の弟より届く「小夏」 井上静夫(栃木県)
- 野菜・山菜
 - 高知の文旦 橋本 絢(東京都)
 - 自信作のジャガ芋 溝畑万年青(埼玉県)
 - 無農薬野菜 日名子春実(群馬県)
 - 旬の野菜 塩崎須美子(神奈川県)
 - 水なす 椋本望生(大阪府)
 - 生しいたけ 守安幹男(岡山県)
 - 竹の子 佐野和彦(静岡県)
 - 山菜を贈りその後家族ぐるみの付きあいに 関 誠(新潟県)
 - 故郷の採れたての山菜 一瀬正子(埼玉県)

●お菓子

- 鎌倉五郎本店「半月」。二つ左右に並べると「満月」と云って渡します 仁藤ひろじ(埼玉県)
- ロールケーキ 大橋絵代(千葉県)
- 手づくりシヨコラ 関山恵一(神奈川県)
- 誕生日ケーキ 清まさじ(静岡県)
- 久助せんべい 青木日出男(群馬県)
- 面白い物嫌いな夫からの雛あられ 桜井葉子(千葉県)
- 和菓子 齊藤安弘(神奈川県)

●お酒・飲み物

- 古い未開封のウイスキー 宇都木安子(東京都)
- 桐の箱入り焼酎 長峰正晴(千葉県)
- 芋焼酎 貝瀬光洋(神奈川県)
- 洋酒 平林義康(兵庫県)
- ワイン 内藤明子(東京都)
- 「久保田」の萬寿 山崎吉晴(群馬県)
- 越後の銘酒 上村元義(神奈川県)
- のどがかわいた時の冷たい水 高橋登志子(新潟県)
- オレンジジュース 矢野紀子(兵庫県)
- 紅茶とジャムのセット 寺内 侖(埼玉県)
- おいしいスープの詰め合わせ 奥那於子(大阪府)





- ・老人会のカラオケグループへ栄養ドリンク
神 一男(静岡県)
- 服・くつ・かばん
- ・スカーフ 高松玲子(埼玉県)
- ・母が生前ぬつてくれた冬物の着物
鈴木義雄(福島県)
- ・ネクタイ 梶鴻風(北海道)
- ・井上氣海(広島県)
- ・防寒衣 守屋高雄(岩手県)
- ・娘からの綿麻半袖シャツ
木村徳夫(東京都)

- ・祖母へ絹のブラウス。出かける度に
着ていた すずき笑子(東京都)
- ・帽子 沖 惇子(大阪府)
- ・白いスニーカー 関原幸子(東京都)
- ・散歩用靴 西條公雄(埼玉県)
- ・娘からぴたりと足に合う流行りの靴
星 一子(神奈川県)
- ・パッチワークの手さげ袋
倉沢ひとみ(静岡県)
- アクセサリ・時計
- ・還暦に主人からダイヤモンドの指輪
とスヌーピーの腕時計
本田智恵子(東京都)
- ・アクセサリ類 細川光子(栃木県)
- ・時計(成人の時父から)
原 崇雄(埼玉県)

- 旅行・チケット
- ・娘がくれた腕時計
中澤寿美(神奈川県)
- ・子ども達から節目の家族旅行
高野ほづ子(千葉県)

- ・国内外の旅行 井原毬子(東京都)
- ・プロ野球のチケット
黒澤正行(福島県)
- 手作り
- ・お手玉 杉原明子(静岡県)
- ・縄文土器のレプリカ
大場卯月(長野県)
- ・干支の木目込み真多呂人形
古閑智子(神奈川県)
- ・松のくりぬきお椀
北野耕兵(千葉県)

- ・手編みの靴下 渥美 保(滋賀県)
- ・句友からの手作りマスク
内藤紀子(埼玉県)
- 人形
- ・キティちゃんの人形
湯浅暉子(石川県)
- ・博多人形 寒川靖子(香川県)
- ・孫に贈った初節句のお飾り
堀木和子(大阪府)
- 陶器
- ・ティーカップ 岩田 信(神奈川県)
- ・天に召された先生からいただいた
「盃」
小島岳青(新潟県)
- その他
- ・小学生に折紙のサンタクロース
松前邦広(千葉県)
- ・旅の土産にポケットに入るルーペ
田中豊恵(新潟県)
- ・退職の送別会で七十名に各々違う写
真
鶴房 章(兵庫県)
- ・写真立て 坪井研治(東京都)
- ・賞状 五十嵐睦博(新潟県)
- ・四枚刃のシェーバー
中村康浩(福岡県)
- ・フォトブック 桑原謙一(群馬県)

- ・毎年誕生日にもらう夫からの俳句
小島澄子(神奈川県)
- ・子や孫の良い話
長谷川庄二郎(千葉県)
- ・旅先からのハガキ
松島章子(兵庫県)
- ・「娘だるま」大昔の恋人が愛媛県の人
だった 吉里ひとみ(東京都)
- ・図書カード 有田裕子(北海道)
- ・洗剤 夏井寛治(新潟県)
- ・財布 早坂紘司(北海道)
- ・レコード 中岡宗治(三重県)
- ・ふわふわもちもち夢まくら
堀田寿美子(北海道)

- ・万年筆 間森 坦(兵庫県)
- ・リハビリの機械 片山茂子(埼玉県)
- ・自転車 岩村 昇(神奈川県)
- ・南仏で買ったオリブオイル
伊藤 修(埼玉県)
- ・だしのもと 多田文代(東京都)
- ・10万(国からの給付金)
岩崎弘舟(岡山県)
- ・貴社の「野菜のポストカード」
久本にい地(岡山県)



今回の回答で多かった「花」について、大正12年創業の小山生花店様にご執筆いただきました。

花言葉の発祥ご存じですか？ 小山生花店社長 小山淳一様



発祥は17世紀頃のトルコと言われています。恋人への贈り物として、文字や言葉ではなく「花に思いを託して恋人に贈る風習」があったそうです。

この花言葉の文化が流行るきっかけを作ったのが、フランス人の女性シャルロット・ド・ラトゥール。1819年「Le Langage des Fleurs」(直訳で「花の言葉」)が出版されると一大ブームとなり、フランスの上流階級の間では、好意を寄せる人への思いや悪口・批判などを、花や植物に例えて詩にする文化が流行したそうです。

日本に花言葉が「輸入」されたのは19世紀末の明治初期と言われています。当初は、輸入された花言葉をそのまま使っていましたが、次第に日本人の風習や歴史に合わせた独自の花言葉が形成されていきました。日本でも百人一首や俳句の世界でも多くの花が詠われていますので、世界共通なのかもしれませんね。

お誕生日、送別会、記念日、お祝い、お別れ会、もらってうれしい、贈って喜ばれる「花」。花は何も語りませんが、貰った方の心を癒す、そんな役目をしています。

編集室だより

生きているといろんなことが起こります。一日の中でもあんなこと、こんなこと、ほんといろいろとありますね！ そんな日常に転がる喜怒哀楽を、編集室よりお届けします。

QRコードを読み込んでくださった方、読み込みもうとしてくださった方、ありがとうございました！

送付書のQRコードをスマホで読み込むと、いつもの読者アンケートのページが開くという仕組みを前号よりスタートしました。こちらからご投稿くださった方が複数名いらっしゃいました！ ありがとうございます。今後も継続していきたいと思っております。本ページ下段に、QRコードの読み込み方を簡単に記しました。ご覧ください。

当社で出版くださった方の本をご案内します(購入可能です)。

●『面白原稿本になる。』伊藤聡著(送料・税込2,870円) — 新潟県立リウマチセンター副院長の著者。各誌に寄稿してきた「面白原稿」が一冊に。

●『句集 棉の実』日比野安平著(本体1,100円) — 長年教員を務めたのちも、教育に携わりつづける著者による第四句集。

●『第三歌集 あかだいだいきみどり』横山鈴子著(本体1,760円)

●『句集 一對』小西瞬夏著(弊誌vol.107にてご紹介)(本体2,200円)

●『句集 蹊』近澤有孝著(弊誌vol.110にてご紹介)(本体880円)

●『石川雲蝶伝』こうじまちとら著(本体1,760円)

●『詠み人のエッセイ TSUMUGU』(送料込2,000円) — 2007～2011年の間リレー形式で弊誌に執筆いただいた俳人のエッセイ30篇を収録。

どうぞお気軽に当社までご連絡ください。お待ちしております。

『ご縁ブック』お休みします

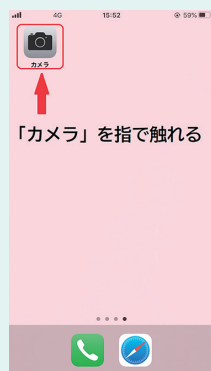
2004年から発行している俳句・短歌・川柳の合同作品集『ご縁ブック』。今年はお休みさせていただきます。楽しみにしていただきた方、毎年ご投稿くださっていた方、申し訳ございません。また別の企画ができればと思っています。アイデア募集！

「フォトック」の写真募集します

皆さまからご投稿いただいている「フォトック」の写真を募集いたします。ご自身の撮った写真を見て、どんな作品が詠まれるか、ちょっと楽しみになるかも？「使っていていいよ」という写真をお持ちの方、ぜひ弊社アドレス odp@eseihon.com に送信、または、郵送をお願いいたします(恐れ入りますが、採否はお任せくださいませ)。

QRコードの読みこみ方と、投稿の仕方

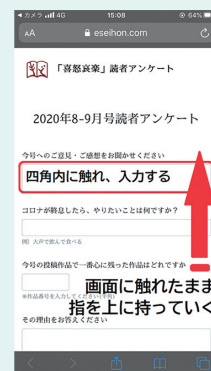
iPhoneの場合



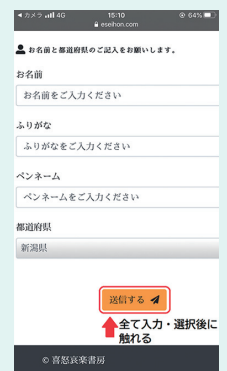
① 初めからiPhoneに搭載されている「カメラ」アプリを探し、カメラマークを指で触れる。



② 二次元バーコードを写真し、上に表示される部分に触れる。



③ 読者アンケートのページに進んだら、質問の下にある四角の枠内を触れ、入力する。画面に触れたまま指を上をスライドさせると、見えていない部分の質問が表示されるようになる。



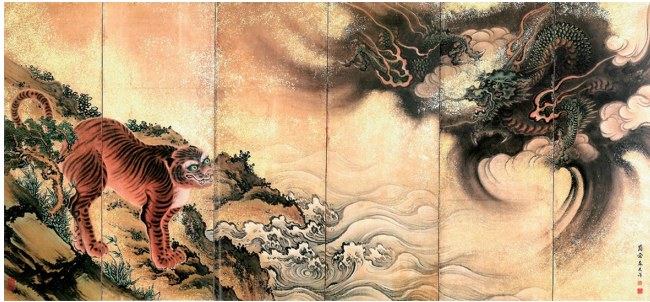
④ すべて入力・選択し終えたら、「送信する」ボタンに触れ、アンケート投稿完了。

Androidの場合

※Androidは機種により操作が異なります。「喜怒哀楽書房 ブログ」とインターネットで検索し、2020年8月12日のブログ記事から読者アンケートのページにアクセスしていただく方法が確実です。

★ 読者アンケート投稿ページ





◀ 森蘭齋《龍虎之図》妙高市蔵 妙高市指定文化財(六曲一双屏風の半隻) 岩場に立つ虎と上空を舞う龍が水辺を挟んで対峙する構図。

南蘋派の画家

もりらんさい
森蘭齋

いずな ひろみ
伊豆名 皓美

にいがた文化の記憶館では、企画展示「江戸のリアリズム 森蘭齋」を開催します。森蘭齋(1740~1801年)は、現在の新潟県妙高市新井に生まれ、江戸中期に活躍した「南蘋派」の画家です。「南蘋派」とは、八代將軍吉宗の招きで来日した中国・清時代の宮廷画家 沈南蘋(1682~1760年?)の流れを汲む日本画の一派です。写实的で鮮やかな彩色の花鳥画を特徴とします。動植物が本物そっくりに再現されるわかりやすい写実性が当時の日本人には新鮮で、大きな影響をもたらしました。日本美術ブームをリードしている画家・伊藤若冲(1716~1800年)も、南蘋の画風に学んだと言われています。

森蘭齋は、幼少より画を好み、新潟の画家・五十嵐(1700~1781年)に学びました。俊明は、新潟における絵画史の筆頭に挙げられる人物です。俊明は30歳で画を志して江戸へ赴き、狩野派を学びました。1744(延享元)年に帰郷して後継の育成にあたっていた俊明に、蘭齋も師事しました。この頃俊明から、南蘋派の第一人者であった熊代熊斐(1712~1772年)の画を見せてもらったことがきっかけで南蘋派への入門を決意。1763(宝暦13)年頃から長崎で

その技法を学びました。師・熊斐の没後は、11年間滞在した長崎を後にして大坂を拠点とし、著名な文人たちの協力を得て、絵手本『蘭齋画譜』八卷(蘭の部四卷、竹の部四卷)を出版しています。画譜の出版は、師匠の意思を受け継ぎ、南蘋派の画風を普及することに重要な役割を果たしました。こうした蘭齋の活動を支えたのは、大坂や群馬、長野など各地の素封家たちや、郷里・新井の人々でした。新井には蘭齋の作品が多く残され、それらは大切に引き継がれています。

寛政年間に、將軍家の御用を勤めさせてもらえば何かと有利であるとの思惑から大坂を離れ、江戸に移住して加賀藩御用絵師として活躍。1801(享和元)年、江戸で逝去しました。享年62歳でした。お墓は浅草本願寺中妙清寺に建てられました。直系の子孫が絶えており、無縁仏になりかねないところでしたが、新井の人々が募金によって移転を進め、1930(昭和5)年に東本願寺新井別院に改葬されました。

蘭齋は、師・熊斐や沈南蘋に原図を求められる花鳥画で画道の継承をはかるのみならず、顧客からの注文に応える形で人物画や山水画を描き、師を凌ぐ個性を発揮しました。新井の地には、花鳥画はもちろん、人物画や山水画も豊富に残されています。今回の企画展示は、「森蘭齋顕彰会」の顕彰活動などによってその所在が明らかになった、郷里に残る作品や資料を中心に、森蘭齋を紹介するものです。

【展覧会情報】

企画展示「江戸のリアリズム 森蘭齋」

会 期：8月22日(土)から11月23日(月・祝)

休館日：月曜日(9月21日、11月23日は開館)、9月23日(水)

山形在住でありながら活動的に全国各地を巡り、俳句を通してイタリアのポローニャ市とも交流のある「銀化」同人武田菜美さん。俳句が磨かれる様をつぶさにご覧ください！

俳句添削講座 工房5・7・5 武田菜美

正岡子規の俳句革新以前の俳諧の連句は、ダイアログ（対話）型の文芸でした。

五月雨を集めて涼し最上川 芭蕉

この発句の挨拶と感謝の意を読み取って

岸にほたるを繋ぐ舟杭 一栄

と挨拶を返します。前句の景を受けて

瓜畠いぎよふ空に影待て 曾良

と場面の転換を図りストーリーを展開させます。

このように各人が詠み手となり読み手ともなり物語を綴ってゆくのが連句ですが、明治中期に発句のみが独立して十七音の有季定型の詩、現在の俳句となつてからはモノログ（独語）型の文芸となりました。独善に傾き易い俳句を正してくれるのが、俳句会での互選・合評ですが、新型ウィルスの出現でそれも思うに任せない現況です。こんな時こそ自句を客観的に見極める力を磨きあげて、ピンチをチャンスととらえてみましょう。

たんぼの遙かな門出風まかせ

たんぼの傍題、たんぼの絮に変えれば景が鮮明になります。

たんぼの絮の門出は風まかせ

さてここからが季語と切字のマジックです。春風に吹かれながら蒲公英の咲く土手に出て

蒲公英や門出の一步風まかせ

どこか車寅次郎のような後姿に変わります。

モンゴルは憧れの地よ青き踏む

モンゴルの草原に憧れるお気持はよく分かり

ますが、モンゴルの何に、どう憧れているのか、具体的に詠んでみましょう。その一言で読み手の印象がより鮮やかになります。

モンゴルの風に焦がれて青き踏む

草っ原の草から大草原の風へとストーリーが広がります。

母遺す畑に添ひたる黄水仙

文面通りであれば、お母様との間に水仙の咲く畑の相続が決まったことになりませんが、どこか不自然です。連句の付合いにならこんな景色に変わります。

母の亡き畑一面に黄水仙

畑に群生する水仙を見ながら、遺された年月やらお母様の働く姿を懐かしむ様子が伝わるようになります。

自分史に記す一年年の暮

俳句は引き算の似合う文芸です。年の暮に一年を振り返り自分史に書き加えてゆく、ここから自分史の頁数が増えてゆくと想像されます。この先は推敲の練習です。自分史に記す一年を自分史の頁に置き換えて季語の年の暮の年の重複を避けてみましょう。これが俳句で言う省略のテクニクです。同じ文字や似通った意味の言葉を一つに削るとすっきりとした姿の良い句になります。原句の場合には季語の年の暮を優先します。

自分史のページを殖やす年の暮

水温む婦唱夫随の在るがまま

関尹子（中国・周の伝説上の人）の「天下の理は、夫が倡え、婦随う」を逆手に取ったユーモラスな句ですが、次の点を推敲しましょう。「水温む」が春を迎えた事を表しているのに対して下五の「在るがまま」は同じ状況が続いている事を示し、季語とは逆のベクトルを示しています。次に夫唱も婦唱も同じ発音となるために活字を離れた場合、せつかくのユーモアが伝わりません。そこで同じ内容を成語に頼らずに表現する方法を捜します。

水温む妻の意見に随ひて

現実はずっと婦唱夫随とお見受けしましたが、俳句を取るか、事実の報告を取るかの覚悟を「水温む」に問われた一句です。

菜花の黄鬱というもの取り扱う

一面の菜の花を前にして、うつつとした気分がすっかり消えたという晴れやかさを表すには、重た過ぎる表現となつていませんか。菜花より菜の花の方が軽やかに響きませんか。「鬱」というものの持つて回った言い回しが、一句全体をどんよりとさせていませんか。引き算をして「気鬱」の三音で表してみましょう。

菜の花の黄色に気鬱消えにけり

黄色・気鬱・消えると韻を踏んで明るい句にしてみましょう。



「喜怒哀楽」111号に。 そして、来年から新しい形に…

おかげさまで隔月刊の「喜怒哀楽」も今号で111号を数えました。最近ではコロナ禍で取材やお客様にお会いすることもままならず、淋しく感じています。足かけ18年超、4ページ白黒の印刷物から16ページのカラー印刷の現在まで、様々な変遷・紆余曲折を経て、まさに様々な「喜怒哀楽」を皆さまと享受してきました。改めて感謝申し上げます。

世の中は今、様変わりしています。「不易流行」とは「いつまでも変化しない本質的なものを忘れない中にも、新しく変化を重ねているものをも取り入れていくこと。また、新味を求めて変化を重ねていく流行性こそが不易の本質である」とあります。

私たちは、これからもこの新潟の地で「本づくりを楽しみながら」生き続けたいと思っています。そのためには、従来の「喜怒哀楽」と同様の形ではなく、新味を求めて新しい方向へと変化する潮目なのかとも思っています。年内はこの形を継続していきますが、その後はまた異なる形を…と考えております。現在の心境を、まずは今までの誌面を通してお世話になった皆さまにお伝えしたいと感じました。そして取返して宣言することで、退路を断ってでも前に進みたいと思っています。具体的にはこれから模索していきますが、今後を見守っていただければありがたく存じます。

令和2年 第32回奥の細道市振の宿俳句会開催

市振は、^{いちぶり}富山県に接する新潟県糸魚川市^{いとがわ}にあり、越後の第一番の「振りだし」という意味です。俳人松尾芭蕉の「奥の細道」収録の「一つ家に遊女も寝たり萩と月」の句はこの市振で詠まれたもので、長円寺境内には、糸魚川出身の文人相馬御風の筆による句碑があります。市振で芭蕉の足跡をたどりながら、俳句会に参加してみませんか。



日 時/令和2年8月23日(日)

受付午前9時30分 9時40分までに市振駅集合

場 所/吟行 市振地区内・市振の宿周辺(午前)

句会 糸魚川市 市振公民館(午後1時～3時30分)

指 導/俳誌「森」主宰 森野 稔

参加費/一人500円 主 催/青海俳句会

後 援/麓俳句会 糸魚川市文化協会

問い合わせ/八木 進 電話・FAX 025-562-3387

野菜のポストカード、縦書き横書きあります

ご好評いただいている季節の野菜が12枚入った野菜のポストカード(送料込み1000円・今回は「枝豆」を同封しました)。お客様のお声を受け、現在は縦書き・横書きともご用意しています。会いたい人にも気軽に会えない昨今、このポストカードに一筆したためて今の気持ちを送ってみてはいかがでしょうか。プレゼント用にもご活用いただけます。ご注文は、同封の振込用紙にご記入のうえ、縦書き、横書きのご希望に○をおつけください。



スタッフの一言 Q.もらって嬉しかった、贈ってよろこばれたプレゼントは何ですか？

木戸 敦子



最近でいえば、骨折時に友達が持ってきてくれた庭の花々。P11の小山花屋さんからのお見舞のお花。花はいい、動けなかったのでしみみ見入りました。贈ったものは父への茄子漬!

古川久美子



貰う分には、物よりも誰に貰ったかが大事なのかな、と最近思う。贈ったものに関しては……果たして本当に喜んでもらえていたのか、自信がない。

菅 真理子



もらって嬉しかったプレゼントは数えきれないけれど(ありがとうございます)、贈ってよろこばれたプレゼントって何だろう。やっぱりビールがしら。

松野 沙依



もらって嬉しかった…誕生日に友人からもらった、思い出の写真で埋め尽くされたコルクボード。よろこばれた…初任給で家族にプレゼントしたタンブラー。

山田 民子



同じ趣味の人に贈った押し紙の動画を編集したDVDはとても喜ばれました。もらってうれしかったのは、コウノトリからのプレゼントし、きれいにまとめてみました。

木伏美美恵



子どもからもらう手紙や似顔絵、夫の優しさ、私の好きなようにしたマイホーム、地元へ帰る私へ友人たちが歌った笑えるテープ。贈ったものでは出産祝いの絵本とか、お花とか。

上村眞智子



お花のプレゼントが一番嬉しい!若い頃は花なんて食べられないし有難く思わなかったけど、最近は植物に慰められることがある。それから昔手編みのセーター贈って喜んでもらった思い出が…

石山由希子



この世知辛いで時世に、私このことを考えて時間を割いてお金まで出してくれたんだ、と思うと何でも嬉しいです。鉛玉!こでもダイヤの指輪(ないない)でも。

吉田 瞳



知り合いの花屋に頼めば間違いない!贈る相手をイメージして作ってもらう花束は喜ばれます!彼と主人は友人なので、誕生日にプレゼントしてもらえるよう仕組み今日この頃(笑)

佐々木祥子



知人から枕、母から万年筆と靴のプレゼント。日常会話から私のために贈り物を考えてくれた事が一番うれしい。両親に贈ったキーリップ・鬼太郎本舗のバッグは喜ばれている様子。

胸

黒岩徳将

頭、首、肩……ときて次の部位は踝！とは予想して
いなかったと思いますが、今回は順当に「胸」。心
は頭と胸どちらにある？という話題がありますが、
個人的には胸派。それゆえか春夏秋冬、どの季節に
おいても胸に迫ってくる秀句が多いですね。

以前、この欄で首は接合部であると書いたが、胸は身体
性の表出の起点として俳句に書かれることが多い。次のよ
うな句が例として挙げられる。

胸すぐるとき双蝶の匂ひけり 阿部みどり女

まつすぐに日射すジャケツの妻の胸 藤田湘子

わが胸の骨息づくやきりぎりす 石田波郷

蝶と胸が交錯することで蝶の不思議さ、身体不思議さ
が強調される。ジャケツの胸に焦点を当てて冬の妻の快
活な様子が演出される。一方、病状を負っていた波郷は自
分の胸に視線を落として詠まざるを得なかったのかもしれ
ない。胸からその奥の「骨」まで視線を透過させていると
ころが一線を画している。きりぎりすの鳴き声も、骨を軋
ませるかのようだ。波郷には他にも「胸の手や暁方は夏過
ぎにけり」「たばしるや鴉叫喚す胸形変」といった胸の秀
句が多くある。胸は心に近く、嗅覚や聴覚といった感覚と
の相性も抜群である。陰陽の気分やムードを読者と共有し
やすい。胸から引き出されるイメージはどれも強く、詩情
を打ち出すにはやや扱いやすいかもしれない。一句がロマ
ンチックになりすぎる危険性もあるが、重要な素材である。
次に思いつのが産む主体としての胸の描き方である。

乳与う胸に星雲地に凍河

対馬康子

「胸」を出してから、視線が上（星雲）にも下（凍河）に
も行くのが新鮮である（もちろん星雲の方はイメージの中
のものである可能性もある）。まるで主人公が世界の創造

主であるかのような。乳を吸う子の人生や如何に。

「胸」と書かれた句はそもそも多く、秀句もいくつも見受
けられる。しかし、超有名句というと「乳房」を使った西
東三鬼の「おそるべき君等の乳房夏来る」の印象が強い。

「胸」が本来占有したかった俳句的シエアを、「乳房」とい
う強豪が分け合っているのだろう。「胸」が直接書かれて
いる句で人口に膾炙している句をなんとか一句見つけた。
他にあれば教えていただきたい。

ねむりても旅の花火の胸にひらく 大野林火

「ても」という逆説的表現を用いることで、数時間ほど前
にみた花火を思い返している。もしくは眠ったあとの様子
を空想で表しているのかもしれない。現実の花火を体で感
得し、もう一度眠る体の中で復活させる。想像の中の花火
なのになんというリアリティであろうか。頭の中の花火が
現実の花火と同じくらい、いやそれ以上にありありと想像
できるのは、「胸」という一語の効果も幾分あるかもしれ
ない。

甲板に寝て銀漢を胸の上 奈良文夫

林火と構図が近い句だが、この句も胸から星々が吹き出
してきそうなエネルギーを感じ、すがすがしい。要は、
「胸」ならば一句の中で森羅万象の大いなるものがつぶ
り四つに組み合えるのである。胸から空へ、胸から宇宙へ、
胸から地へと俳句の旅は続く。私はどこへ行くべきか。

胸を二度叩き飛び込み台に立つ

徳将

2020.8-9. vol.111 (2020年8月10日発行/隔月発行)

●発行・印刷/株式会社ミュージズ・コーポレーション

〒950-0801 新潟市東区津島屋7-29

TEL 025-250-9555 FAX 025-250-9550

喜怒哀楽書房



株式会社ミュージズ・コーポレーション

☎ 0120-819-395 Facebookもチェック



e-mail odp@eseihon.com / HP http://www.eseihon.com

郵便局口座番号 00530-4-81370 口座名 株式会社ミュージズ・コーポレーション

編集後記

前号のスタッフ写真はマスク姿だったため、本欄に「8月号では笑顔でお会いできることを願っています」と書いた。幼少期はむっつりして
いて父によく「おっぶくれ」と言われた。「大変な時こそ笑顔で」「楽し
いから笑うのではない、笑うから楽しくなるんだ」なんて言うは易しと思っ
ていた、顔の筋肉を動かすことで、脳も笑ってしまうんだとか。骨折を機に朝の
散歩を始めこれですこぶる気分がいいのに、家人には不機嫌な顔で「おはよう
」と言ってしまふ。小さなことでいい、具体的に行動を変えていこう。(木戸敦子)